

新たな価値を創造する生徒の育成  
～「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした実践を通して～

# 実践事例集



令和4年度から3年間をかけて積み重ねてきた  
研究の成果を授業実践の形でまとめました。

令和6年度  
山梨大学教育学部附属中学校

# 単元名

実施学年

授業者

本単元のねらい

本単元のねらいを端的に示しています。

主な学習活動

生徒の学び

主体的な学びのプロセスモデル

生徒の学びの姿を、  
単元の流れに沿って示しています。

生徒の学びが、「主体的な学び」のプロセスモデルのどの学習過程にあたるのかを示しています。

GRITの視点

本単元の学習が、GRITの育成にどのように関わっているのかを端的に示しています。「GRITの視点」とは、GRITの育成のポイントとなる概念で、「自己調整」「学習方略」「関係性」等があります。

# 単元名 あなたの知らない「私」を伝えます

実施学年

授業者

第1学年

若尾 大樹

## 本単元のねらい

本単元では、自分の好きなことを話題とした、スピーチの発表会を行う。生徒は話し言葉と書き言葉の特徴に着目しながら、自分のスピーチや他者のスピーチを検討したり、聞き比べたりする中で、自分の「好き」が伝わるスピーチの構成や表現について考える。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。（発表会に向けてどんな準備が必要か考え、「学びの計画書」を用いて計画を立てる。）
- 「よいスピーチ」とはどのようなものか、これまでの学習想起し全体で共有する。
- 「学びの計画書」に従い、スピーチやスピーチメモを検討する。
- ①選んだ「好きなこと」が相手に分かりやすく伝わるように、どのような話の構成でスピーチをするかを考える。
- ②自分のスピーチの練習動画を撮影する。
- ③スピーチの構成や表現を吟味する。
- スピーチの発表会を行う。
- 単元を振り返る。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画  
「学びの計画書」を作成し、単元全体の目標と学習方略の見通しを持つ。
- ▷遂行
- ▷形成的評価  
自身の計画に従って学習を進める。必要に応じて、仲間との話し合いや教師からのアドバイスをともに活動の調整を行う。
- ▷総括的評価  
単元全体の学習を振り返り、次の「話すこと・聞くこと」の学習に向けて課題を明確にする。

### GRITの視点

#### 自己調整

「学びの計画書」をもとに学習を進めていく中で、毎時間、計画を見直す時間を設けた。生徒は進度の調整を行ったり、仲間の活動や計画書から活動内容の吟味を行ったりした。

# アイスプラネット「ぐうちゃんの手紙に返事を書こう」

実施学年

授業者

第2学年

那須 正和

## 本単元のねらい

・本単元では、文学的文章の読みの授業として人物の効果的な描写に着目して読み深めを行った。その際に学習課題を教師と生徒との対話から行い。読み取りからの根拠を持って自身の考えの形成を行わせたい。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 初読むの感想を「疑問」「批判」という視点で記入させ、そこで出された疑問点から学習課題の設定を行う。
- 「学びの計画書」を作成させ、本単元で到達すべき目標に向けて方略を練る。
- 自身の計画に従って途上人物ごとに設定した課題を解決する。
  - ・父は登場する意味はあるのか。
  - ・母はぐうちゃんをどうに思っているのか
  - ・ぐうちゃんはだめな大人なのか など
- ICTによる共有や仲間との交流を行い、必要な時に必要な自己調整が図れるようにする
- 「ぐうちゃんは何者なのか」について自分の考えを記入する。
- 全体で共有し、まとめを行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

#### ☆目標設定

初読の感想から、この単元で目指す姿を設定する。

#### ▷方略計画

「学びの計画書」を作成し、単元全体の目標と学習方略の見通しを持つ。

#### ▷遂行

自身の計画に従って学習を進める。

#### ▷形成的評価

仲間との話し合いやICT機器の活用を行いながら自分の動きの見直しを行う。

#### ▷総括的評価

単元全体の学習を振り返る。次の文学的文章読解に向けての課題を持つ。

### GRITの視点

#### 学習方略

学びの計画書にはこれまで学習してきたことから得た学習方略(文学的文章の読み)を挙げ、この単元に必要だと思ふ方略を使って計画を立てた。

# 「故郷」の価値について考えよう

実施学年

授業者

第3学年

山本 祐太朗

## 本単元のねらい

本単元では、「故郷」について複数の翻訳者の文章を読み比べ、「故郷」という作品が何を伝えようとしているのか考える。初読の感想で出た疑問点や印象に残った点について、複数の翻訳を比較し、表現に着目して読む。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

○「故郷」という作品について、複数の翻訳を読み比べながら考察するという目標を設定する。

○班で話し合い、何について考察するか、どのように分担するか計画する。互いの初読の感想を読み合い、疑問点や印象に残った点を共有して考える。

○翻訳を読み比べ、班で話し合いながら考察する文章を作成する。

○考察した文章をスプレッドシートで共有して読み合う中で、自分の読み方がどのように変容したのか考える。

### 主体的な学びのプロセスモデル

▷目標設定

▷方略計画

▷遂行

▷総括的評価

### GRITの視点

#### 関係性

班で話し合いながら考察し、わからないことや気になったことをすぐに班の仲間に聞くことができるようにする。

# 大航海によって結びつく世界

実施学年

授業者

第2学年

米山 卓

## 本単元のねらい

ヨーロッパ人来航の背景とその影響を多角的に考察することができる。また、ヨーロッパ人の海外進出によって、日本との対外関係、日本はどのような影響を受けたのかを諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、理解することができる。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 単元を貫く問い「ヨーロッパの人々は、なぜ世界に進出したのだろうか。」を設定する。
- 単元を貫く問いの解決に向けた「ゴール」を設定し、各時の目標を立てる。
- ヨーロッパの大航海時代について、歴史的な背景、大航海時代の内容を学び、世界に進出する理由を多角的に考察する。
- 単元を貫く問いに対する自分なりの考えをまとめる。「ゴール」の達成状況の確認と評価を行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- 目標設定
- 方略計画
- 遂行
- 振り返り・方略調整
- 全体の振り返り

### GRITの視点

#### 自己調整

課題に対する答えを考察する場面において、考察の仕方や自身の意見のまとめ方やを生徒間同士で共有する。

# 日本の諸地域とこれからの山梨

実施学年

授業者

第2学年

進藤 秀俊

## 本単元のねらい

日本の各地域について、多面的・多角的に考察させることを通して、その地域的特色や地域の課題を理解させる。また、山梨における地域の課題を見出させ、各地域の対応策を参考にして、その課題に対するよりよい解決策を選択させる。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 単元を貫く問い「どうすれば山梨の人口減少を食い止めることができるのだろうか。」を設定する。
- 単元を貫く問いの解決に向けた「ゴール」を設定する。
- 7つの各地方について、地域的特色や地域的課題、その課題に対してどのように向き合っているかを考察する。
- 3地方について学んだあとで、「ゴール」に対する達成状況の確認、学習方略の修正等を行う。
- 単元を貫く問いに対する自分なりの考えをまとめる。「ゴール」の達成状況の確認と評価を行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画
- ▷遂行
- ▷振り返り・方略調整
- ▷全体の振り返り

### GRITの視点

#### 自己調整

各地域の考察の場面において、同じ視点に着目させたり、考察の方法や意見のまとめ方を生徒間で共有させたりする。

# 基本の作図

実施学年

第1学年

授業者

須賀 勇吾

## 本単元のねらい

本単元は、図形を様々な観点から観察して考察することによって図形の基礎的な性質の理解を深め、それを活用して考えたり判断したりしようとする態度や、図形に対する直観的な見方や論理的に考察し表現する力を作業を通して養うことに重点を置いている。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 学習を貫く問い「コンパスと定規だけ使って、何度の角が作れるか」を設定する。
- どんな作図ができるようになれば、問いが解決するかを考える中で、「垂直な線」、「角の二等分する線」に気づく。
- 垂線、角の二等分線の作図方法をそれぞれ考え、多様な方法を生み出す。
- なぜその作図が正しいと言えるかを考える中で、対称性に気づき、2つの作図方法を統合していく。
- 再度コンパスと定規だけ使って何度の角が作れるかを検証する。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画
- ▷遂行
- ▷振り返り・方略調整
- ▷全体の振り返り

### GRITの視点

#### 自己調整

作図の方法が正しい根拠を自分なりに考え全体で共有することをくり返す中で、対称性に気づき、根拠を明確にしていく。

# 説明のしくみ

実施学年

授業者

第2学年

荻原 崇

## 本単元のねらい

本単元では、「単純な図形の性質から出発し、より複雑な図形の性質を導く」という演繹的な考え方に重点をおいて学習を進めていく。本単元を通して、論理的に説明する力を生徒に身につけさせたい。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 「多角形の内角の求め方を説明しよう」という課題を設定する。
- 多角形の代表として、五角形で内角の和の求め方を考えていくこととする。
- 「1つの頂点から各頂点に対角線を引く」「内部の点から各頂点に線分を引く」「辺上から各頂点に線分を引く」「外部から各頂点に線分を引く」といった方法で三角形に分割して五角形の内角の和を求める。
- その方法が六角形、七角形、八角形...となっても使える方法か検討する。
- $n$ 角形の内角の和をそれぞれの方法で求め、結果的にどれも $180^\circ \times (n-2)$ になることを確認する。
- 根拠としていた「三角形の内角の和は $180^\circ$ である」ことの証明に目を向ける。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画
- ▷遂行
- ▷振り返り・方略調整
- ▷全体の振り返り
- ▷新たな単元・領域へ

### GRITの視点

#### 学習方略

いろいろな考え方がある問題に取り組ませる中で、すでに見つかっている方法から別の方法を考えさせる。

# 単元名 相似な図形

実施学年

授業者

第3学年

小松 健一

## 本単元のねらい

「紙をなるべく正確に3等分する」という実生活で頻繁にある課題と関連づけて学習課題を設定し、「相似な図形を利用して線分を3等分する点」について考える。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

○現実世界とのつながり

・感謝の手紙を書く時間があることを伝え、紙を3つ折りにするというよくある作業を行う

○目標設定：数学の舞台に乗せる

・3つ折りにするために考えられることは紙を3等分する点が必要でそれを見つめることができれば3つ折りはできるということからA4用紙を3等分する点を作成しようという目標を設定する

・平行線を使うことで相似な図形が表出する

・相似比を用いて1:2もしくは1:1:1となるような点を書ければ3等分する点を求めることができる

○数学的活動

(現実世界)・平面的な関わりを持つこと

例：この方法ならば5等分する線は書けるのか

(数学の世界)・立体的な関りをもつこと

例：aとbの積を線分算で表すことができる<正負の数との関連>

### 主体的な学びのプロセスモデル

紙を2等分することや4等分することは既習の内容を利用すれば簡単に作成できる。しかし、3等分することはできそうでできないというところに生徒のやってみたいという意識を強く持たせるような題材設定をした。また、感謝の手紙を書くということを実際に行うことで自分事として捉えることができるようにした。作業の時間を多く取り入れることで試行錯誤し、①別のやり方はないか②n等分することはできないか③別の紙でも同じことができるのかなど場面に応じて自己調整をし、自力解決の時間を取っている。そして、出てきた意見をもとに実際に紙を折らせて、3等分する点を見つめることができたかどうかを実感できる。

### GRITの視点

#### 自己調整

一度証明した場面を別の場面に変えることで証明のどの部分を変えるとその結論が導き出せるか考えさせる。

# 単元名 生物の世界

実施学年

授業者

第1学年

森澤 貴之

## 本単元のねらい

様々な生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。また、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

○本単元の最後の時間に植物と動物の共通点と相違点は何かについて考える。

○植物と動物の共通点と相違点について考える際に、思考ツールであるベン図を活用する。

○ロイロノートでベン図のカードを配付し、生徒一人ひとりがこれまでの既習事項を振り返りながら、ベン図を完成させる。

○完成したベン図を解答共有し、自分以外のクラスの仲間がどのように考えたのかどうかを見て、自分にはない新たな視点を得てベン図に書き加える。

### 主体的な学びのプロセスモデル

▷目標設定

植物と動物の共通点と相違点は何かという課題を設定

▷方略計画

これまでの既習事項を振り返る  
(教科書、資料集、ノート)

▷遂行

ベン図を作成する

▷振り返り・方略調整

解答共有した他者の意見を参考に  
する中で、自分の考えを振り返る

▷全体の振り返り

単元全体の学習を振り返る

### GRITの視点

#### 関係性

各自が作成した植物と動物の共通点と相違点のベン図を他者のベン図と比較することで新たな視点を得て学びをさらに深める

# 単元名 「電流とその利用」

実施学年

授業者

第2学年

中沢 公士

## 本単元のねらい

電気代の節約という実生活・実社会の課題と関係づけて学習課題を設定し、「電気代を抑えるための工夫」について考える。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

【電熱線から発生する熱量と、電力や電流を流す時間との関係についての仮説設定】

- ・ドライヤーによる髪の乾き方に注目して、電熱線から発生する熱量と、電力や電流を流す時間との関係について仮説を設定する

【電熱線から発生する熱量と、電力や電流を流す時間との関係についての実験・考察】

- ・電流を流した時間と水の上昇温度の関係、電力と5分後の水の上昇温度の関係を明らかにする実験を行い、グラフをかく。
- ・実験結果の分析を通して、電流を流した時間と水の上昇温度の関係、電力と5分後の水の上昇温度の関係を見出す。

【電熱線から発生する熱量と、電力や電流を流す時間との関係についての学習の整理と「電気代を抑えるための工夫」について考える】

- ・班の交流を通して、省エネルギー化という観点から自分の生活や考え方を見直す。

### 主体的な学びのプロセスモデル

仮説設定時に、電気代を抑えるための工夫について考え、学習前の考えを明確にしておく。日常生活に結びついているため、生徒が主体的に観察・実験を行うことができる。そして、電熱線から発生する熱量と、電力や電流を流す時間との関係についての実験・考察後に、もう一度、電気代を抑えるための工夫について、学習したことを踏まえて考え直すことで、学習したことの意義と日常生活とを結びつけることができる。

### GRITの視点

#### 関係性

自身の仮説と他者の仮説を比較して、「なるほど」と思うものを参考に自身の仮説を改善していく活動を取り入れた。

# 水中の物体に加わる力 浮力

実施学年

授業者

第3学年

深沢 拓矢

## 本単元のねらい

水中にある物体には浮力が働くことを理解し，浮力の大きさが何と関係するのかについて仮説を立てて実験を立案して行い，その結果を分析・解釈して浮力の規則性を見出す。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 課題「水中の物体に加わる浮力の大きさは，何と関係するのだろうか」を設定する。
- 既習事項や生活経験を根拠として，課題に対する仮説を個人で設定する。
- 個人の仮説をグループで検討し，個人の仮説を修正する。
- 設定した仮説を検証するための実験を立案し，グループで検討して行う。
- 実験結果を分析・解釈し，浮力の規則性を見出す。
- 学習過程を振り返り，何が一番大切だと思ったか，また課題解決のためにどのように取り組んだか自分の考えをまとめる。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画
- ▷遂行
- ▷振り返り・方略調整

### GRITの視点

#### 自己調整

実験計画の立案の場面で，仮説検証のためにより良い実験を立案できるように，他者の意見を参考に見直しをさせたりする。

## 曲想に合う歌声を追求し、よりよい歌声で表現しよう

実施学年

授業者

第1学年

赤池 夏実

## 本単元のねらい

本題材の学習を通して、どのような歌声で表現したいかという思いや意図を明確にし、個々の目標を達成するために動画をヒントにしながら、自ら練習を繰り返し行うことでよりよい歌声で表現することができることを目指していく。

## 主な学習活動

## 生徒の学び

◎「ふるさと」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、どのような歌声で表現できるようになりたいか見通しをもつ。

◎様々な歌唱曲の声の音色について比較聴取し、どのような声で歌いたいかという思いや意図をもつ。

◎曲にふさわしい歌声で歌うために必要な技能を生かして歌唱表現を工夫し、日本唱歌に親しむ。

・設定した目標を達成するために、歌唱時のヒント【学習方略】となるヒントカードや動画を見て、個人で練習・録音を繰り返し、よりよい歌声を追究する。

## 主体的な学びのプロセスモデル

海上自衛隊東京音楽隊の三宅由佳莉さんが歌唱する「ふるさと」の歌声を全員の目指すゴールと設定した。「言葉を大切にし、響きの豊かな声で歌う」ことができるように「浅く平坦な歌声になってしまうから、深い声で歌いたい」などという個人の目標を立てた。タブレット端末に自分の歌声を録音して聴いて自分の現状に気づき、ヒントカードを基に練習したり友人と協働的に練習したりすることにより目標に近づくことができた。

## GRITの視点

## 自己調整

よりよい歌声で歌唱するためのヒントとなる動画をもとに様々な学習方略を試して、目標に近づけるよう試行錯誤する。

# 題材名 卒業研究発表会にご案内

実施学年

授業者

第3学年

古屋 美那実

## 本題材のねらい

卒業研究発表会を案内するフライヤーを考える活動を通して、伝えたい発表内容の魅力やイメージ等から主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、色彩や文字のフォント、装飾、構図などを工夫して発想、構想し、表現する。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 実際に使用されているフライヤーや教師の作品例を鑑賞し、工夫点を考える中でイメージをもたせる。
- 活動計画をもち、自分のやるべきことを理解させる。
- 自分の卒業研究の内容からこういった魅力やイメージを伝えたいのか、広げられるようにワークシートを工夫したり、他者と交流したりできる機会をつくっていく。
- canvaを使用し、試行錯誤しながら自分のこだわりを表現していくとともに、他者に見てもらい、他者の見方や考え方に触れることで考えを深める。
- 仲間の作品を鑑賞する中で、自分の作品について振り返る。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ▷目標設定
- ▷方略計画
- ▷遂行
- ▷振り返り・方略調整
- ▷全体の振り返り

### GRITの視点

#### 関係性

他者と交流できる環境の中で活動を行うことで、他者の考えに触れ自分の活動を調整することができる。

# 単元名 陸上競技「ハードル走」

実施学年

第2学年

授業者

小林 早希

## 本単元のねらい

課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結びつけ、新たな意味や考え方を見出す。

個人で考え、それをグループで共有し、新たな考え方を見出しながら自己の目標を達成できるようにする。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 最終的な個々の目標を立てるためのポイントとして、『リード足』『抜き足』『50m走のタイム』という3つのキーワードを出し、具体的な目標設定のイメージをもたせる。
- 個人での練習を重ねた後、グループを作り、仲間同士でお互いの動きのアドバイスができる機会を作る。
- ICT機器で撮影を行い、自分の動きを客観視することで、具体的な動きの課題を見つけ、改善策を考える。
- 記録測定もグループで行い、撮影者や計測者なども仲間と協力して行う。
- 1時間目と最終授業での記録と動画を再度確認して振り返りを行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

#### ★目標設定

目標となる姿や記録を過去の学習や既存の経験をもとに考え、設定する。

#### ▷方略計画

学習を行っていく中で、自己の課題を見つけ、明確にし、改善するための方法や知識を探る。

#### ▷遂行

個人の課題に適した練習を行う。

#### ▷振り返り・方略調整

仲間との話し合いやICT機器の活用を行いながら自分の動きの見直しを行う。

#### ▷全体の振り返り

単元全体の学習を振り返る。

### GRITの視点

#### 自己調整

『個人』での客観視と『仲間』からの客観視を合わせて行うことで自分の目標につかづけるように思考し、工夫する。

# 単元 球技『ソフトボール』

実施学年

授業者

第2学年

深澤 一晃

## 本単元のねらい

課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結びつけ、新たな意味や考え方を見出す。個人で考えたことはチームの中で共有し、新たな意味や考え方を見出しながらゲームを展開できるようにする。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- 目指すゲームの様相を『基本的なバット操作と走塁などの攻撃の技術やゴロやフライの捕球と送球、定位置での守備などの技能を高めてゲームを楽しむ』に設定する。
- 基本的なボール操作（キャッチボール、ゴロ、フライ、バッティング等）を学習する。
- プレイヤーの人数、グラウンドの広さ、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。
- 振り返りを行うなかで、ゲームのなかでより必要な技術や動きを考える。
- よりレベルの高い試合（連携した守備で失点を最小にする、相手の隙をついた打撃や走塁）を目指したり、プレイ上の制限を減らしたりして、正規のルールに近い形でゲームを行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- ゴールを設定し、過去の学習経験を生かしながら、課題解決のための学習方略を考える。
- 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて、個人やグループでの学習活動に参加する。
- 自らの学びの効果を振り返る。また、学習の進み具合を把握し、見通しをもつ。
- 自らの学びの質や成果を振り返る。

### GRITの視点

#### 自己調整

自分の動作を動画で確認し、上手な生徒と動きを比べる。チームでの話し合いを通して、自分に足りない技能や考え方を見出す。

# 単元名 ダンス（現代的なリズムのダンス）

実施学年

授業者

第2学年

川口 照平

## 本単元のねらい

課題の解決に向かって、新しい知見や技術革新を取り入れながら、これまでに得た知識や経験を結びつけ、新たな意味や考え方を見出す。個人で考えたことはグループの中で共有し、新たな意味や考え方を見出しながらダンス作品を創作できるようにする。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

○最後のダンス発表会での姿を『単元のキーワードである「羞恥心」、「超自分」、「想像力」を意識して仲間とダンスを楽しむ』に設定する。

○基本的なステップ、共通の動きを全員が前半の時間に習得する。

○グループの創作活動においてICTの学習シートを活用し、既習のステップを組み合わせたり、発展させたりする。

○ICT機器で創作状況を撮影し、全体で共有する。自己やグループの動きを振り返る中で他者や他グループの動きや構成を参考に仲間と作品をより発展させていく。

### 主体的な学びのプロセスモデル

#### ▷目標設定

単元計画から自己の目指す姿を具体的にイメージし記述する。

#### ▷方略計画

学習を深める中で成果・課題を明確にし自己の目標を達成するには何が必要か言語化する。

#### ▷遂行

動きの練習や創作活動。

#### ▷振り返り・方略調整

ICT機器を活用し自己やグループの動きを撮影・視聴する中で、自分の考えや動きを振り返る。

#### ▷全体の振り返り

単元全体の学習を振り返る。

### GRITの視点

#### 自己調整

自分の動きを動画で確認し、上手な生徒やグループと動きを比較する。創作活動の中で足りない技能や考え方を見出す。

# 単元名 学校生活を便利にする製品を開発しよう！

実施学年

授業者

第2学年

青柳 敬大

## 本単元のねらい

学校生活に焦点を当てmicro;bitを使って製品を開発させる活動を通して、生徒に問題を見出す力や、プログラミングによる課題解決の力を育むことをねらいとしている。また、ペアで活動を行うことで、苦手意識のある生徒も取り組みやすくした。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

- プログラムやアクティビティ図等の基本的な知識を学ぶ。
- センサやアクチュエータについて学ぶ。
- 光センサを使った自動照明について、どのようなプロセスで課題解決されたのかを考える。
- センサを使った分岐のプログラムについて学ぶ。
- micro;bitとセンサを使って、学校生活を便利にする製品の開発を行う。

### 主体的な学びのプロセスモデル

- プログラミングについて必要な知識を学ぶ。
- 問題を見出し解決する流れを例示で学ぶ。
- 学校生活の中で、どんな製品があると便利なのか課題設定を行う。
- ペアで取り組ませ、プログラムをアクティビティ図に書いてからプログラミングを行い、実際に制作して動作し、デバッグを行う。

### GRITの視点

#### 学習方略

「関係性」を重視し、問題解決活動をペアで行わせた。課題を共有し、粘り強く取り組む力が身についた。

# 単元名 UNIT 6 A SPEECH ABOUT MY BROTHER

実施学年

授業者

第1学年

久保寺 悠

## 本単元のねらい

教科書の登場人物である朝美が授業で兄・卓也を紹介している本文を通じて、読んだ内容をもとに、自分の家族など、身近な人を他者に紹介することができる。

## 主な学習活動

### 生徒の学び

○単元の各パート（全3パート）の活動として、教科書本文の内容（朝美の兄・卓也の情報）をメモとして整理し、メモをもとに情報を相手に伝える活動を行う……単元末パフォーマンス課題につながる活動

○文法の知識として、三人称単数現在の仕組みを理解し運用することができる。

○各パートで行った活動について振り返りを行う（振り返りシートの活用）。

### 主体的な学びのプロセスモデル

#### 目標設定

- ・単元末パフォーマンス課題の内容確認とループリックの確認

#### 方略計画

- ・情報を整理し、メモに起こす
- ・教科書本文に出てきた語句や表現を再確認する

#### 遂行

- ・メモを基にスピーチを行う

#### 振り返り・方略調整

- ・表現できたことできなかったことを振り返る

### GRITの視点

#### 学習方略

各パートでの活動と振り返りシートを活用し、単元末パフォーマンス課題へと向けた方略調整を図る。

# Unit5 A Legacy for Peace

## What did Gandhi leave us behind?

実施学年

授業者

第3学年

関原 寛明

### 本単元のねらい

後世の人々に影響を与える人物の生き方について考えるために、ガンディーの生涯や功績について書かれた英文を読み、読んだことをもとに自分の考えを伝え合うことができる。

### 主な学習活動

#### 生徒の学び

単元を中心となる内容について理解し、単元の学習に見通しを持つことができる。

言語活動（主に「話すこと」）に取り組む。

Who is your favorite person?

Who is the most famous Japanese in the world?等

言語活動で使用した英語について、言語面・内容面での振り返りを行う。

言語面：接触節等を正しく使えているか

内容面：人物に関する客観的事実が述べられているか

パフォーマンス課題で達成できたことを振り返り、次の単元学習に活かす。

#### 主体的な学びのプロセスモデル

▷目標設定

▷方略計画

▷遂行

▷振り返り・方略調整

▷全体の振り返り

#### GRITの視点

##### 関係性

ペアワークや小グループで相手を変えながら言語活動に取り組ませ、英語で「伝え合う」経験をさせる。